

## 教職大学院の教育課程の見直しに係る主な具体的論点について（案）

### ○新しい教職大学院の目的・機能

教職大学院の発展・拡充にあたって、モデル機能から一般的な養成機能に転換する。具体的には、学生・教育委員会などのニーズを踏まえ、教科の指導法や特別支援教育等の現場での必要性が高い分野について、理論と実践の往還による実践的な指導力を修得することを可能とする。

### ○教職大学院のカリキュラムイメージ

教職大学院の目的・機能の転換にあたって、これまでの成果の検証と発展・拡充にあたっての改善点について検討する。

#### （全体のカリキュラム構成）

- 共通科目、選択科目、学校における実習という教職大学院のカリキュラム構成について、従来の共通科目の在り方を中心に何をどのように変更するか。
- 教職大学院の実習は、共通科目、選択科目と関連させつつ、どのような内容とするのが望ましいか。また、教職大学院の授業と実習を通じて特定課題を指定し、成果の発表をすることを課すことは必要か。
- 現職教員とストレートマスターでは、教職経験や身に付けている体系的な知識量が異なるため、共通5領域の単位数に差をつけるなど履修モデルを分けるべきか。

#### 〈共通に開設すべき授業科目の5領域〉

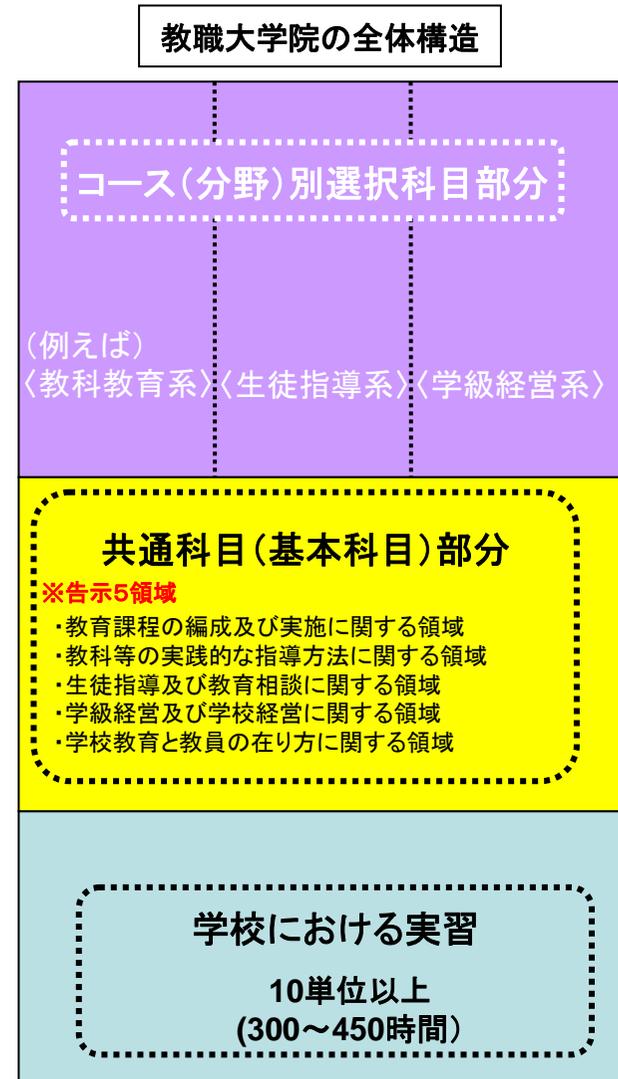
- 特色あるコースを設置しやすくするため、共通5領域の単位数（20単位程度）をどの程度削減すべきか。
- 共通5領域に特別支援教育、ICT活用など新たな分野を追加すべきか。
- 学生の教職経験等にあわせて5領域をメリハリをつけて履修するべきか。

#### （多様なコース、履修モデルの設定）

- 教職大学院の発展・拡充にあたって、学生・教育委員会などのニーズを踏まえ、学校経営や生徒指導のコース等に加え、教科の指導法や特別支援教育等、多様なコースや履修モデルを設けることを促進してはどうか。

# 現行の教職大学院の教育課程について

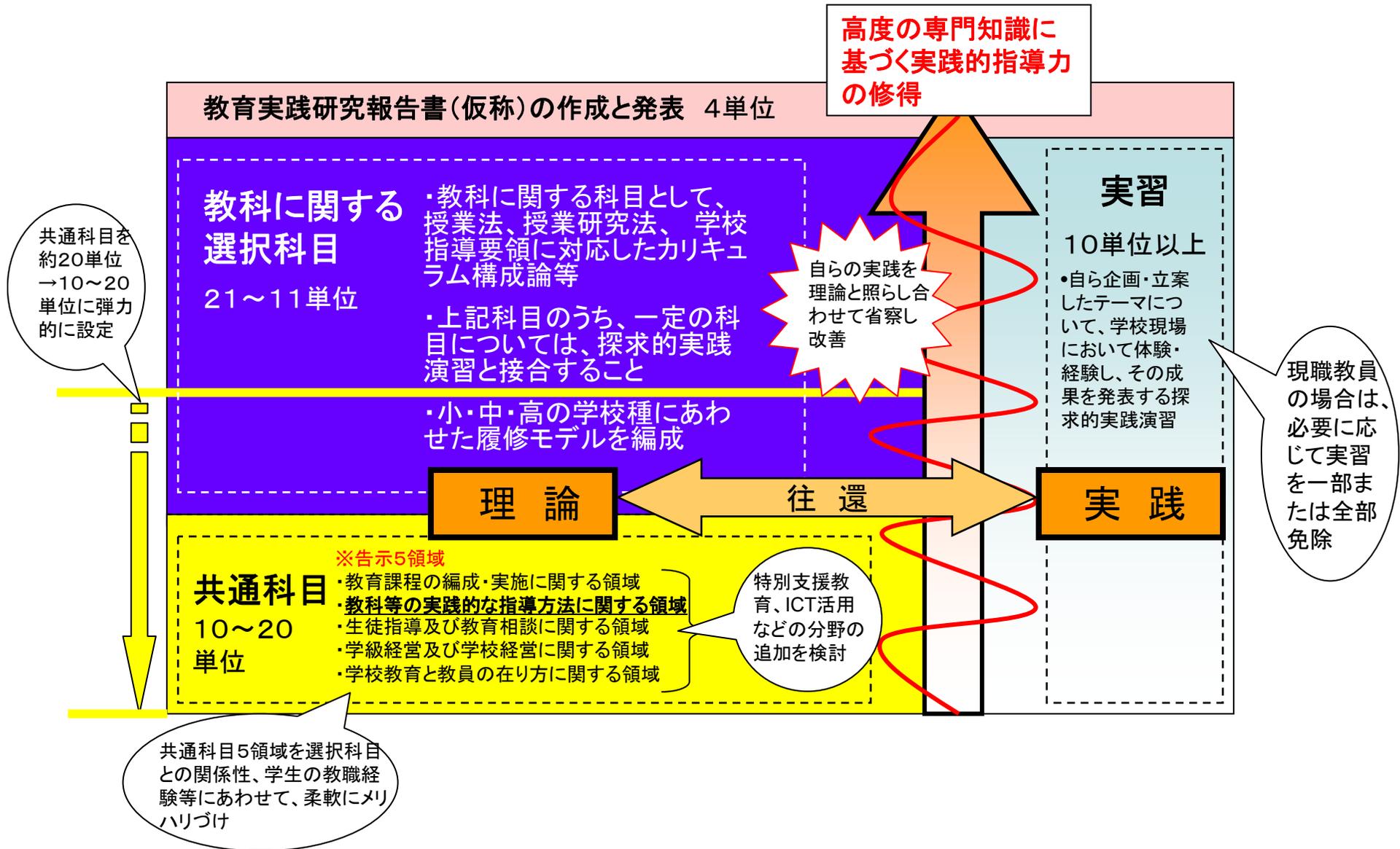
- 教職大学院の課程の修了要件は、45単位以上（実習10単位以上を含む）を修得することと規定されている（専門職大学院設置基準第29条第1項関係）。
- 共通科目の部分の単位数については、各大学院における設定に委ねられているものの、総単位数から実習10単位を引いたもののうちの半数以上が目安として示されている（平成18年中教審答申）。現行の教職大学院では、おおむね20単位としている。
- 実習については、現職教員について全部または一部免除することができると規定されている（同設置基準第29条第1項第2項関係）。現行の教職大学院では、7大学で全部免除、19大学で一部免除を認めている。



# ○教科教育を中心とした履修モデル(案)

- ・実習 10単位以上
- ・教育実践研究報告書(仮称)の作成と発表 4単位
- ・共通科目 10~20単位
- ・教科に関する選択科目 21~11単位

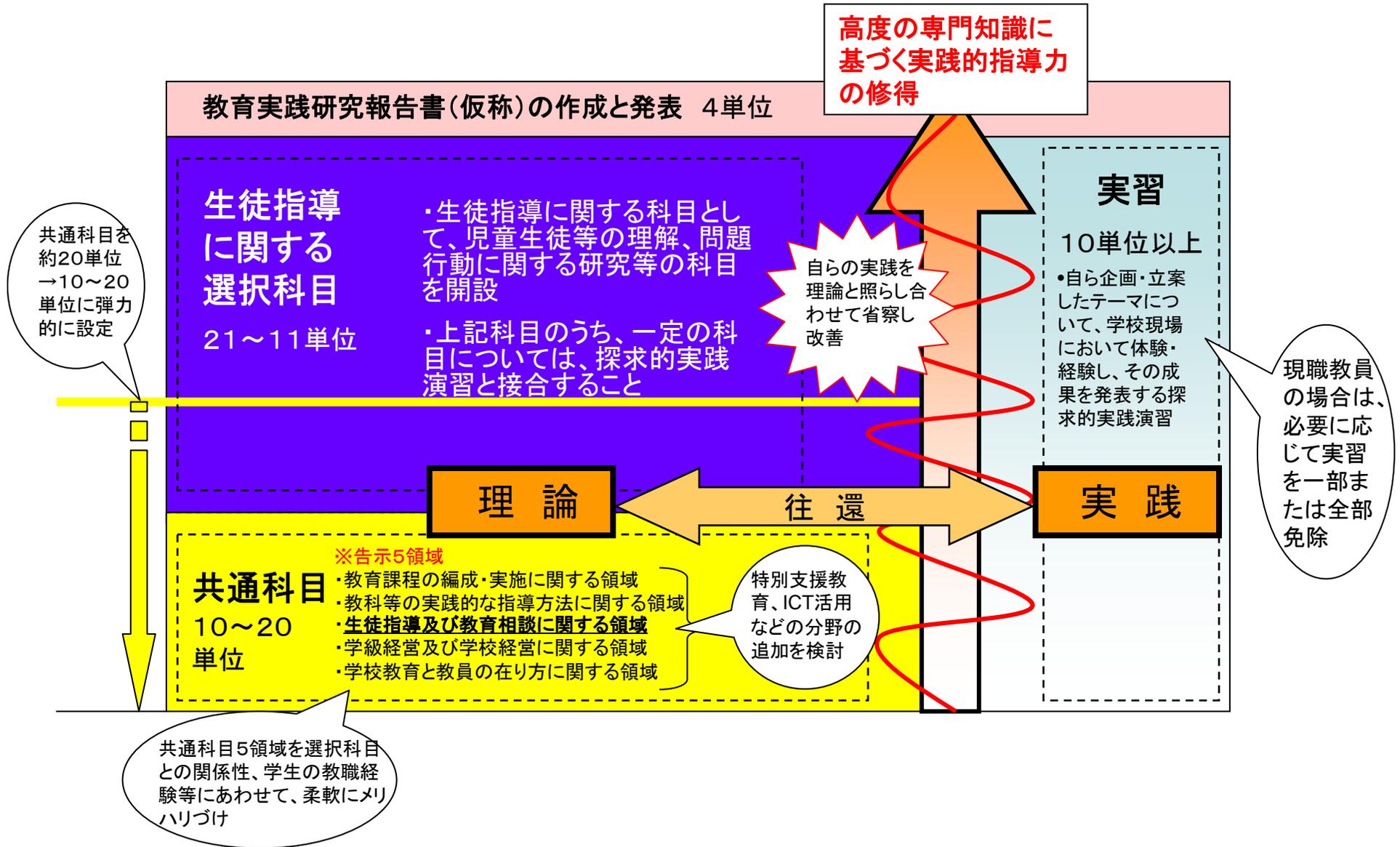
※ 単位数の割り振りについては、あくまで一案であり、変更もあり得る。



# ○生徒指導を中心とした履修モデル(案)

- ・実習 10単位以上
- ・教育実践研究報告書(仮称)の作成と発表 4単位
- ・共通科目 10~20単位
- ・生徒指導に関する選択科目 21~11単位

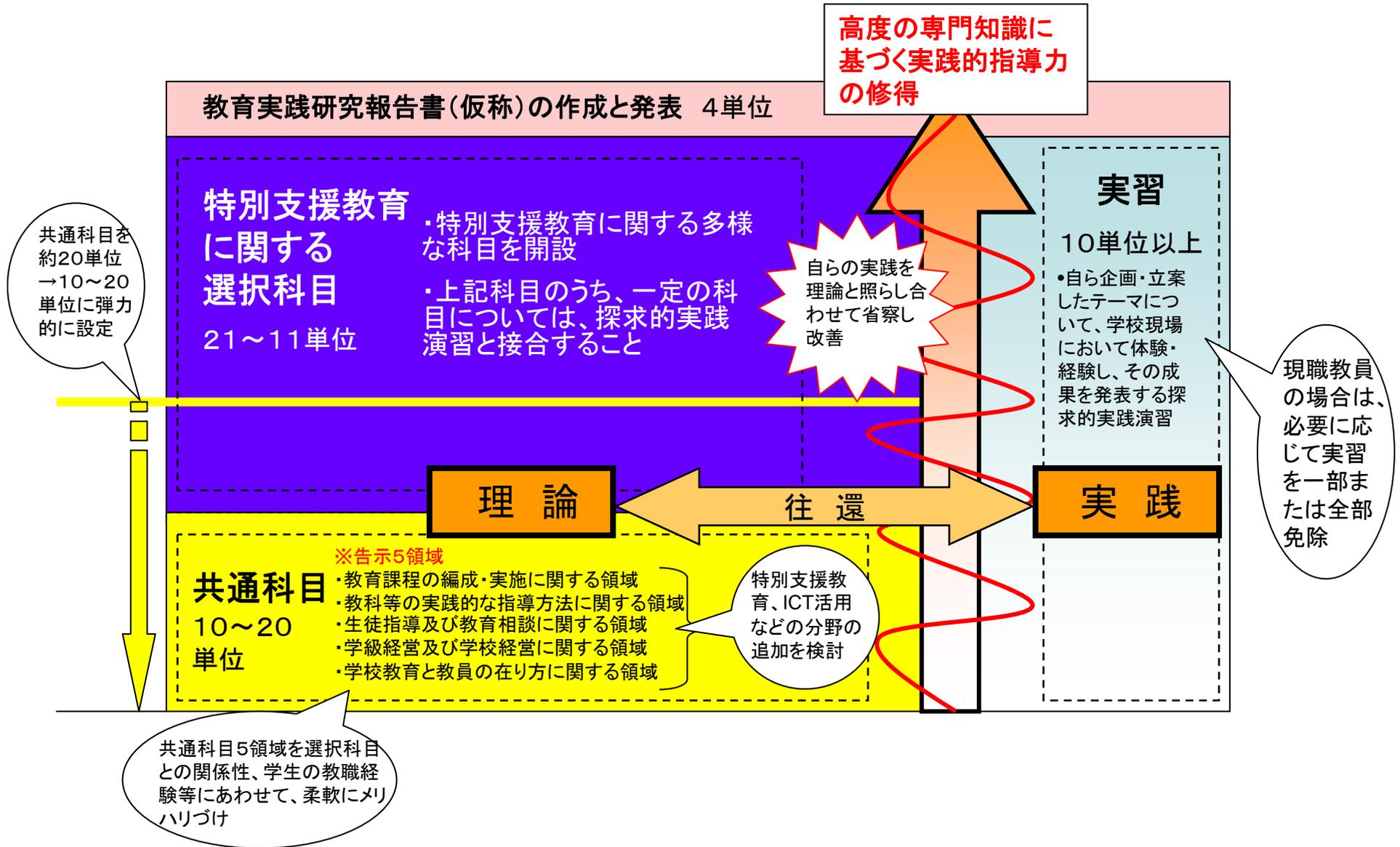
※ 単位数の割り振りについては、あくまで一案であり、変更もあり得る。



# ○特別支援教育を中心とした履修モデル(案)

- ・実習 10単位以上
- ・教育実践研究報告書(仮称)の作成と発表 4単位
- ・共通科目 10~20単位
- ・特別支援教育に関する選択科目 21~11単位

※ 単位数の割り振りについては、あくまで一案であり、変更もあり得る。

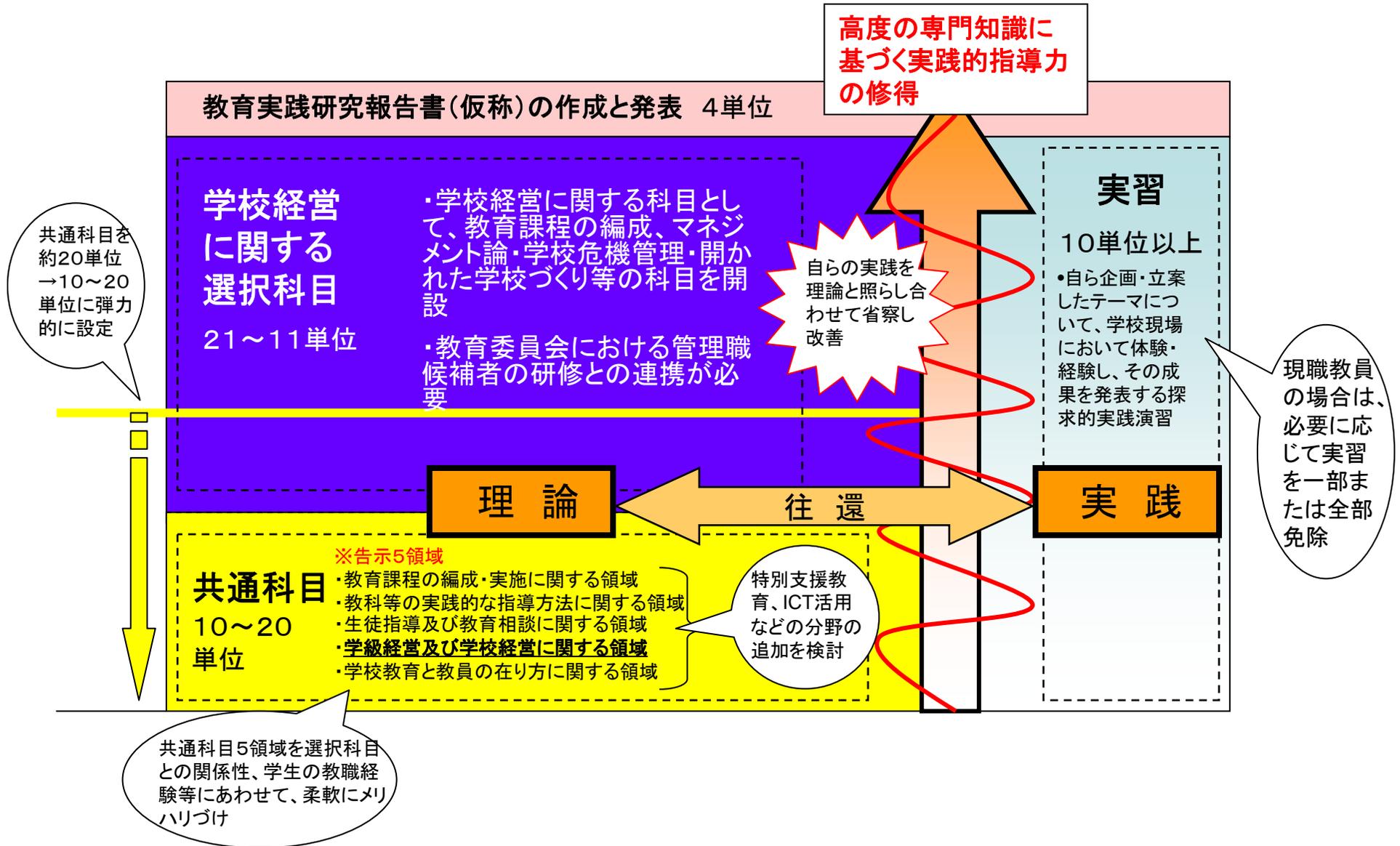


# ○学校経営を中心とした履修モデル(案)

主として管理職を目指す現職教員対象

- ・実習 10単位以上
- ・教育実践研究報告書(仮称)の作成と発表 4単位
- ・共通科目 10~20単位
- ・学校経営に関する選択科目 21~11単位

※ 単位数の割り振りについては、あくまで一案であり、変更もあり得る。



## 【参考】 共通に開設すべき授業科目5領域の科目例について

参考資料 2. 教職大学院におけるカリキュラムイメージについて(第二次試案)  
今後の教員養成・免許制度の在り方について(平成18年7月11日中教審答申) 抜粋

### (1)教育課程の編成・実施に関する領域

#### ・「教育課程経営の実践と課題」

方法：典型的な事例についての実地調査(フィールドワーク)及び、それを踏まえある特定の条件下での複数プランのシミュレーションを中心とする。(複数プランの比較検討・効果予測、実地検証等を含む。)

#### 内容:① 教育課程の立案・実施

- ・教育課程編成、時間割編成、校時表編成の実際(小・中・高等学校等各  
学校種の事例研究／小規模校・大規模校、都市部・へき地校等各学  
校の特色に応じた事例研究)
- ・「教科センター方式」の事例研究
- ・2学期制・3学期制等の実践事例研究

#### ② 教科指導と教科外指導の全体計画・実施

- ・学校行事の配置・実施についての事例研究
- ・学校裁量の時間の使い方に関する事例研究

#### ・「カリキュラムマネジメントの実践と課題」

方法：ワークショップ及びフィールドワークを中心とする。

#### 内容:①「個に応じた指導」の実際

- ・小・中・高等学校等各学校種における事例研究(担当者、全体指導との  
関わり、実施体制等)
- ・複式学級の事例研究
- ・学びの履歴の管理に関する事例研究(ポートフォリオ等)

#### ②「評価」

- ・学習指導と評価の在り方(評価の在り方、指導と評価の一体化)
- ・相対評価と絶対評価

#### ・「総合的な学習の時間と教科指導の関連」

方法：ワークショップを中心として行う。

#### 内容:①「総合的な学習の時間」の基本的理解

- ・「総合的な学習の時間」のねらい、年間指導計画の作成
- ・各単元の学習活動づくり、学習テーマの設定

#### ②「総合的な学習の時間」と教科指導の関連の在り方

- ・各教科の共働による「総合的な学習の時間」の実践事例の検討
- ・学校行事との関連の在り方
- ・実地のための指導体制の在り方

## (2)教科等の実践的な指導方法に関する領域

### ・「教科教育の実践と課題」

方法:フィールドワーク(各学生が自担当教科や自校種以外の事例の調査を行う。)をもとに、事例に関し相互検証・検討を行うことを中心とする。

内容:① 授業の指導計画と教材研究

- ・教科と学問、指導における「知識」と「技能」の関係
- ・指導案の作成
- ・教材研究(教科書を含む)の手法

② 指導方法の工夫

- ・各教科、各学年における指導の特性
- ・「板書」「示範」等の実際とその教育効果
- ・教科指導と情報処理、教具の活用

③ 授業の評価、授業改善の在り方と工夫

### ・「教育方法の実践と課題」

方法:ワークショップ(各学生が教育方法に関して、自らの担当教科や校種の実践例を持ち寄る。)を行い、相互に検証・検討を行うことを中心とする。

内容:様々な指導方法について、その特性と工夫について考察する。

- ・少人数指導・習熟度別指導(その実践例、授業形態、効果及び課題等)
- ・TA(ティーチング・アシスタント)・チームティーチングの活用
- ・複式学級
- ・体験型授業の組織及び運営

## (3)生徒指導、教育相談に関する領域

### ・「生徒指導の実践と課題」

方法:事例についての实地調査(フィールドワーク)及びワークショップ(各学生が事例・実践例を持ち寄り検討)を中心とする。

内容:① 生徒指導上の諸課題(不登校、いじめ、校内暴力等)の実際(児童虐待、思春期等に見られる心身症・精神疾患等を含む。)

② 生徒指導上の諸課題への対応、指導、相談の在り方

③ 校内指導体制の構築と関係機関との連携(守秘義務と情報交換を含む。)

### ・「生徒指導と関係機関との連携の実践と課題」

方法:事例についての实地調査(フィールドワーク)及びワークショップ(各学生が事例・実践例を持ち寄る。)をもとに、相互に検討・検証を行うことを中心とする。

内容:児童生徒指導の諸課題の理解に立った、関係諸機関との連携の実例を検討

- ・児童福祉施設(児童相談所、児童自立支援施設、児童養護施設)
- ・病院等医療機関
- ・警察・司法・矯正施設(家庭裁判所等)
- ・「進路指導(キャリアガイダンス)参画演習」

方法:事例についての实地調査(フィールドワーク)及びシミュレーションを行うことを中心とする。

内容:学校教育における实际場面への参画(企画・立案・実施・省察・評価)

・進路指導の情報収集・管理・提供

・キャリアガイダンスの实务(進路相談等)

#### (4)学級経営、学校経営に関する領域

##### ・「学級経営の实践と課題」

方法:シミュレーション、事例についての实地調査(フィールドワーク)及びワークショップ(各学生が事例・实践例を持ち寄る。)を行い、相互に検討・検証を行うことを中心とする。

内容:① 学級経営の实际

・学級経営案の検討

・児童生徒を生かす学級経営の方法と改善

② 保護者と連携を図った学級経営

・学級PTA

・保護者との連携の在り方

##### ・「学校経営の实践と課題」

方法:事例についての实地調査(フィールドワーク)及びワークショップ(各学生が事例・实践例を持ち寄る。)を行い、相互に検討・検証を行うことを中心とする。

内容:① 学校経営の在り方に関する事例研究

・特色ある学校経営の在り方

・学校経営戦略の立て方(地域のニーズ、学校選択制等)

・学校経営における裁量

② 学校組織の在り方に関する事例研究

・学校における組織の在り方(校務分掌の在り方、教員の集団づくり等)

・学校における合意形成の手立て(職員会議等)

・校内研修の在り方・組織化

③ 地域など社会と連携した経営の在り方

・学校と地域との関係(地域開放、学校評議員制度等)

・異校種間連携

##### ・「学校における『管理』实践とその課題」

方法:フィールドワーク及びワークショップ(部分的にロールプレイング(例えば模擬職員会議等))を行うことを中心とする。

内容:① 情報管理

・個人情報の扱い

・保護者への対応や報道機関等外部機関への対応

・守秘義務の在り方

② 労務管理

・教員の管理

- ・非常勤教職員の管理
- ③ 危機管理
  - ・想定される危機状況とその対応事例(合意形成、組織化、情報管理、対外的な対処、等)

#### (5) 学校教育と教員の在り方に関する領域

##### ・「学校教育と教員の在り方」

方法:ワークショップ及びロールプレイングを行うことを中心とする。

内容:① 学校と社会

・現代社会における学校教育の役割と現代的諸課題の解決策

② 教員の社会的役割と社会的・職業的倫理

③ 教職員評価(教職員人事評価制度、指導力不足教員など)

##### ・「教育コミュニケーションの実践と課題」

方法:ワークショップ及びロールプレイングを中心とする。

内容:① 教員と児童生徒間のコミュニケーションの実践的技法

・教員の同僚性・仲間づくりに関する実践

② 教員と保護者、地域のコミュニケーションの実践的技法

・保護者・地域とのコミュニケーションの在り方

・コミュニケーション能力開発の実践